

V 大和市と厚木基地との取り組み

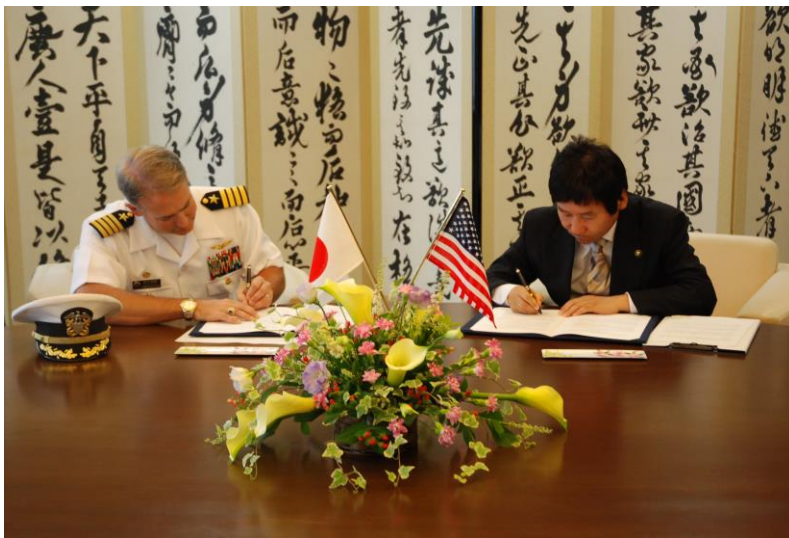
2011年（平成23年）3月に発生した東日本における大地震などに端を発し、市民の防災への関心の高まりや、災害と自衛隊、米軍等との関わりなどが注目されている。災害対策等に関しては、本市と厚木基地との間でも様々な取り組みが進められている。

1. 消防に関する協定

大和市と米海軍は、火災による災害時において相互に援助することについて協定を締結している。1967年（昭和42年）1月30日、大和市長と米海軍厚木航空基地司令官との間で「相互消防援助協定」が締結され、その後1982年（昭和57年）6月30日には、在日米海軍横須賀基地司令官を加えて新たに「消防相互援助協定」が締結され、1987年（昭和62年）12月14日の三者による新たな締結を経て現在に至っている。

2. 災害対応準備及び災害救援の共同活動に関する覚書

大和市と米海軍厚木航空施設司令部は、2010年（平成22年）7月20日、災害時などの救援活動や事前の対策に関して相互に支援協力することを目的とし、「災害対応準備及び災害救援の共同活動に関する大和市と米海軍厚木航空施設司令部との覚書」を交わした。厚木航空施設では、災害時に備えた食料や水などを備蓄しているほか、災害用の様々な機材や設備を保有し、それらを扱う人材も揃っており、この覚書により、本市の防災体制が充実することとなった。



覚書に署名する大和市長と米海軍厚木航空施設ガードナー司令官（当時）

3. 厚木基地における訓練等

厚木基地は、大規模災害発生時には医療搬送拠点として使用されることなども想定されており、日頃から国、県、米軍等により、様々な災害を想定した訓練が行われている。大和市も必要に応じ参加しているほか、大和市基地対策協議会でも訓練の視察等を行っている。



厚木基地で実施された訓練のようす